

最近の県内景気動向

平成13年12月27日
日本銀行水戸事務所

～企業の投資姿勢も抑制的など全体で停滞～

最近の管内経済動向をみると、製造業の生産や建設、卸売等非製造業の売上げが落込み続け、加えて収益の悪化や先行き不透明感を背景に、企業の投資姿勢も抑制的になっているなど、全体として停滞した状態を続けている。

《 消 費 》

■11月の大型小売店の売上

引き続き、前年を下回る状態を続けているが、季節商品中心に底固い動きもみられる。すなわち、狂牛病の影響で精肉の売上げが落込みを続けているが、寒気到来に伴いスーツ、コート等防寒用重衣料が好売行きとなったほか、歳暮ギフトも各種販売策を凝らした取組みが奏効して比較的順調な滑り出しとなった。

■11月の乗用車新車登録台数

一部の新型車や人気車種を除き、売行きが鈍くなっており、普通車（前年比▲5.2%）、小型車（同▲12.0%）ともに前年を下回った。

■11月の家電販売

石油ファンヒーター等暖房器具が堅調を続けているほか、BS内蔵テレビやDVD等ホームシアター関連機器も高い伸びを示しているが、パソコンが頭打ちとなっているのをはじめ、エアコン、冷蔵庫、電子レンジ等も低調に推移していることから、全体としては低い伸びが続いている。

■旅行取扱状況

海外旅行が部分的に回復に向っているほか、国内旅行へのシフトもみられるが、全体としては、なおテロ事件の影響が尾を引いている。すなわち、海外旅行は、香港、韓国、グアム等の近場がほぼ前年並みまで回復したものの、米国やヨーロッパ等の遠距離旅行は、引き続き前年を大幅に下回っている。一方、国内は、海外からのシフトもあり、北関東や伊豆方面の温泉地や大型テーマパークを中心に前年を2割程度上回っている。

《 公共・住宅投資 》

■11月の公共工事請負金額

国（前年比▲47.5%）の大幅な減少を主因に、前年を下回った（同▲13.7%）。

■10月の新設住宅着工戸数

貸家（前年比+20.3%）が前年比プラスに転じたものの、主力の持家（同▲27.1%）が大幅な減少となったことから、全体では前年を大幅に下回った。（同▲10.8%）。ハウスメーカーでは、新築注文の獲得に一段と注力しているが、こうした中、将来の成長が期待されるリフォーム分野を強化する動きも見受けられる。

《 生 産 動 向 》

■10月の鉱工業生産

電気機械、金属製品等を中心に前月比プラスとなったものの、輸出やIT関連需要の減退が続いていることから、前年比では減少した（生産指数前月比：+0.7%（原指数前年比▲3.7%））。

■10月の出荷

一般機械、電気機械等の減少を主因に、前年を大幅に下回った（出荷指数前月比：+0.7%（同▲10.1%））。

■10月の在庫

化学、電気機械等を中心に前月比増加した（在庫指数前月比：+2.8%（同▲6.2%））。

■11月の産業用電力消費量

鉄鋼、化学、電気機械等が前年を大幅に下回ったことから、前年比マイナス幅を拡大した（前年比：10月▲4.7%→11月▲6.4%）。

県内主要経済指標 (前年比、%)

	12年	13/9	13/10	13/11
大型小売店売上高	▲ 6.2	2.5	▲ 7.9	▲ 5.6
乗用車新車登録台数				
[除く軽]	2.2	▲ 6.4	2.4	▲ 9.3
[含む軽]	3.2	▲ 8.9	2.8	▲ 9.3
公共工事請負金額	▲ 7.5	6.5	16.8	▲ 13.7
新設住宅着工戸数	▲ 10.7	▲ 13.8	▲ 10.8	n.a.
[持家]	▲ 3.7	▲ 11.6	▲ 27.1	n.a.
産業用電力消費量	5.4	▲ 0.7	▲ 4.7	▲ 7.2
[大口電力]	5.8	▲ 7.2	▲ 4.7	▲ 6.4
鉱工業指数 [生産]	-	▲ 4.9	▲ 3.7	-
鉱工業指数 [出荷]	-	▲ 8.8	▲ 10.1	-
鉱工業指数 [在庫]	-	3.1	▲ 6.2	-
有効求人倍率(倍)	0.65	0.59	0.56	n.a.
倒産件数	13.1	▲ 5.0	81.8	20.0